

2023年11月6日(月)

老球の細道759号

できる、地産地消！「ウインターカップ県予選観戦記」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先週、今週と2週間に渡って県高校選抜大会(ウインターカップ県予選)を福島東、福島南高校、福島「あづま総合体育館」で観戦した。今年は男女の決勝戦がBリーグ福島ファイヤーボンズ対新潟アルビレックスのゲームの前座試合として運営され、最終日は有料試合観戦となる歴史的な大会となった。

決勝は男女共県高体連決勝戦と同じ福島東陵高校対帝京安積高校の対戦となった。特に男子決勝戦はそのまま東北大会決勝戦となる好カード。そしてドラマが起きた。今まで負け続けて来た帝京安積がエースガード不出場の状況の中で、福島東陵を破り初優勝を遂げた。

ゲーム前の練習を見ると、福島東陵は留学生(ナイジェリア?)の迫力あるダブルクラッチからのダンク、福島市出身170cm台の選手のボースダンクシュートの炸裂で、今までの福島県高校大会では見られない迫力だった。

しかし、ダンクシュートはBリーグレベルであったが、やはり高校生の試合であった。勝敗を決したのはリバウンド。帝京安積は福島東陵の留学生に対する徹底したスクリーンアウトと勇敢なオフェンスリバウンド奪取で、相手のセカンドシュートを封じ込め、自分たちのセカンド攻撃をことごとくものにして、終始リードのゲームを展開した。

やり過ぎても叱られないリバウンドでがんばった帝京にはバスケの神様からプレゼントが与えられた。要所要所で外からの3Pシュート、ドライブからのシュートフィニッシュが決まった。追いつかれそうな危ない場面で、これによってなんとかしのぐことができた。

最後に高さの利を活かすことができなかったデイフェンディングチャンピオン福島東陵は、エースの留学生をベンチに下げ、帝京の歓喜の姿を仰ぎ見るしか術がなく負けた。

女子決勝は男子と反対に福島東陵がゴール下、オフェンスリバウンドを制し、男子の屈辱を果たし3年連続優勝を果たした。昨年同様会津出身の選手がいて活躍していた。

今年度は会津高校女子が会津地区としては久しぶりに優勝を狙えるチームであったが、主力選手のケガなどがあり会津地区の全国大会出場の夢はかなわなかった。特に今年の3年生世代はミニバスの県大会で会津地区チームが優勝している「黄金世代」だけに、この年代を高校まで十分に育てきれなかったのは会津協会としても残念でたまらない。

今大会男女共上位チームは私立高校ばかりであったが、帝京安積は県外からの選手はいなくて、ほとんどが県南地区出身の選手達である。地産地消で全国レベルのチームを育てることはできる。県南でできて会津でできないわけがない。

誰しも強いチーム、有名なチームでプレイしたいと思う。それに反して、弱いチームで自分の力によって強いチームにしようという野望を持った人は会津にいないだろうか。強いチームで強くなるより、弱いチームを強くする方が何倍も面白いし、感動も大きいと思うのだが。日々の挑戦、試練、努力の感動が呼吸のように、毎日繰り返すことができる。